

関西・沖縄戦を考える会 講演会

沖縄戦とハンセン病

わたしが辺野古・高江にかかわった経緯

奥間政則さん

日時: 2018年3月16日(金)

午後6時30分から

会場: エルおおさか 708号室

(地下鉄谷町線、京阪天満橋駅 徒歩5分)

資料代: 1,000円



(背景図は辺野古埋立設計概要図)

辺野古や高江の米軍基地建設現場に毎日通い、監視と調査を続け、土木技術者の専門的見地からさまざまな工事の内容や計画を指摘し、抗議の声を上げる奥間政則さん。

彼のご両親はハンセン病患者だったが、生前そのことを話すことは一切なかった。大人になり、両親の病気のこと、ハンセン病に対する差別の事実を知った時の衝撃はとても大きかった。

国策として長年隔離政策をとり、ハンセン病患者への差別を助長させた政府と、基地を沖縄に押しつける国の構図は同じではないか、と躊躇していた基地建設反対運動に参加するようになったと奥間さんは語る。



1965年鹿児島県名瀬市生まれ。沖縄県国頭郡大宜味村在住。県立沖縄工業高校土木科を経て、東京の中央工学校土木科卒。

沖縄出身の両親はともにハンセン病患者。隔離政策、種の根絶のために断種墮胎が行われていた時代、全国のハンセン病施設の中で唯一国策に反して断種墮胎をおこなわなかった奄美大島の「和光園」で生まれた。現在、土木技術者として個人で図面を作成する仕事を請けている。

関西・沖縄戦を考える会

(問合せ: 新聞うずみ火 ☎06-6375-5561)